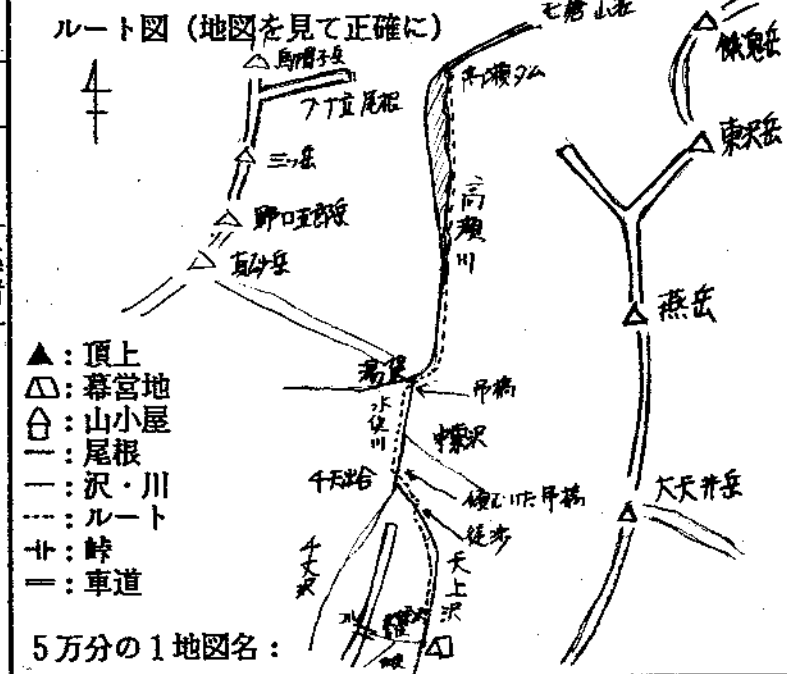


月会例会 個人	山行集会報告書	報告者 大矢	報告日 9/12	参加 メンバー	CL: 大矢 伊藤(陸)
山域名 糖ヶ岳 北鎌尾根	山行日 90年8月30日(木)~ 9月2日(日)				

山行目的 北鎌尾根を楽しむ	コースタイム (天候: 天気図記号)
------------------	--------------------

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



8/31	14:05	一本 徒歩点
① 6:05 七倉山岳	14:30	
7:15 高瀬ダム上	15:20	一本
7:30	15:40	
② 8:25 林道終点	15:55	天気図
8:40	16:25	北鎌天出合
9:35		
9:55		
10:20 湯俣吊橋		
10:50		
11:10		
12:10		
12:45		
12:45		
13:05		
13:45 千天出合		

<報告者所見> 信濃大町から、アノ立尾根を登る人と便乗で七倉山荘までタクシーで入り、6時過ぎに歩み出た。空は段々晴れてきて、良い天気になりそうだ。高瀬ダムの上で一本取る。去年の夏山合宿の後半通った鳥帽子岳から南天岳・不動岳のガレまでの稜線が良く見える。最近雨が降っているせいなのか、ダムの水量は少ない目である。これなら徒歩で苦労することはあるまいと安心する。高瀬川をしばらく行くと、前方遠く彼方に槍ヶ岳らしきものが千々に見えた。湯俣から水俣川へ入ると道は左岸をトラバース気味に歩いて、ガレている所もあり結構歩きにくい。途中北太とザイルにつかまってトラバースする所もあり、ヤバイと思ったので下に降りて、ガレの手前で一旦対岸に渡り、また渡り返した。高瀬川は半分枯

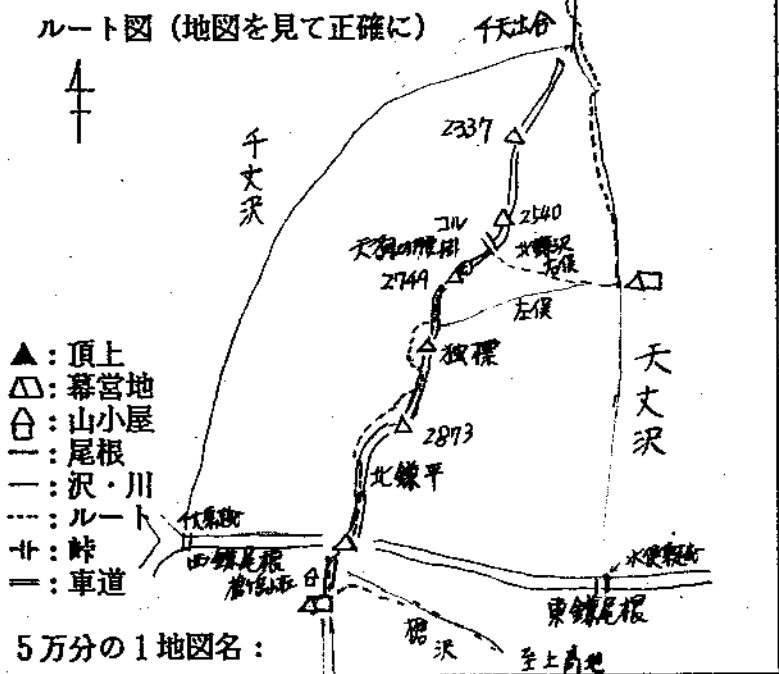
←リテラシー→ 歩いてきたのに、上部の水俣川は水量が少く、水も冷たいように冷たかった。千天出合橋で左側に傾いた吊橋を渡ると天上沢に入る。20分ぐらい登るとザイルがフックスしており、左岸に渡り返す。P2Aの分岐を見送り更につめていく。最後は水が枯れた広河原になり、程なくテントを積んだ北鎌天出合に着いた。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に
・天上沢の水が少な目で、テント場から7分程下りかければ水が豊富、それ以外は申し分ないテント場である。

月 度 例 会 個 人 山 行		集 会 報 告 書		報 告 者 報 告 日	/	参 加 成 員	CL:
山 域 名 山 名		山 行 日	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()	メンバー			

配布先
 集会：8
 山行：1
 リーダー
 原紙：集
 会担当者

山行目的	コースタイム (天候：天気図記号)
------	-------------------



9/1
 ① 7:20 起床
 5:20 出発
 6:25) 一本
 6:40) 一本
 7:25) 北鎌沢コル
 7:45) 一本
 ② 8:40 天狗の腰掛
 9:00 独標下
 9:45 独標下
 10:20) 一本 独標の
 10:30) 一本 peak
 11:50) 一本
 12:10) 一本 千丈沢側と

12:50 北鎌平
 13:10) 一本
 13:30) 一本
 13:50) 檜 peak
 14:20) 檜 peak
 14:35 千丈場

9/2
 ① 3:20 起床
 5:25 出発
 5:35) 檜 peak
 5:55) 檜 peak
 6:10) 檜 peak
 6:15) 檜 peak
 7:40) 一本 11:10) 一本
 8:00) 一本 11:30) 一本
 9:25) 一本 12:25) 一本
 9:40) 一本 12:25) 一本

<報告者所見> 前日夜、槍ヶ岳方面で雷光が踊っていたが、朝にゆるい天気になった。北鎌沢左俣を見送り、ぐんぐん高度を上り、北鎌尾根が見えているのになかなか着かない。最後の草付を一頑張りするとコルに出た。いよいよ北鎌尾根が始まる。踏跡はしっかりしている。ハイマツの稜線の急登を喘ぎ登ると天狗の腰掛に出た。ガスが出てきたが、切り間に黒々と聳え立つ独標に思わぬ圧迫感。20分ぐらいで独標コルに着き、少し右側に行った所に2つガリーがあり、それぞれハーゲンが打ってある。結構急でシンドイので結局千丈沢側をすくと巻いてく。途中、独標に登る踏跡と思わぬものがあった。そのまま巻いて独標の一方向のピークに出た。檜ピークをすく上方にガスに包まれて見える。独標方面の踏跡を辿り、たすくは千丈側側を巻く。フリースペース山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

いよいよ、稜線から50mぐらい下を巻くので道と間違えたかと不安になった。ガレを登るとひたひたと北鎌平に出た。そこを、すくは檜の穂先に取り付く。単独登山者に追いつかれた。驚いたことに、七倉山荘から1日たつて来たようだ。(その翌日、その日の夕方、上高地へ下(り)来た) 赤ヤキをたどり若とよも登ると、かきに檜のピークだ。ガスで何も見えないが嬉しい。翌日は、快晴で、御来光を拝んだ後、檜ピークを往復し上高地へ下山した。